

第36回「医療放射線の安全利用」フォーラムの開催

主 催：医療放射線防護連絡協議会

日 時：平成27年2月27日（金）10:00～16:15

場 所：タワーホール船堀 5階「小ホール」（総合区民ホール）

江戸川区船堀4-1-1（電話：03-5676-2211）

地下鉄・都営新宿線「船堀」駅下車 北口（徒歩1分）

テーマ：医療関係者に対する放射線防護教育とは？

趣 旨： わが国の放射線教育の関心は、先般の原発災害から急激に高まり、放射線教育の中身と教育現場が未整備のまま、見切り発車の感があります。また、医療関係者に対する放射線教育も一部の医療職教育で実施している程度のため、先般の原発災害からの教訓からも医療関係者に対する放射線防護教育の必要性が認識されました。

最近、ICRP Publ. 113の「放射線診断およびIVRにおける放射線防護教育と訓練」の邦訳版（2014年3月31日）が発行され、医療従事者に対する放射線防護の教育訓練が提示されおり、今後、わが国においても医療関係者への放射線防護教育を充実する必要があります。

今回は、とくに放射線診療専門医師、その他の専門医師、看護師や機器メーカー等への教育訓練の具体的な実施とその課題について議論します。

（プログラム）

10:00～10:10

ご挨拶 佐々木康人（医療放射線防護連絡協議会会長）

10:10～11:10

第Ⅰ部 基調講演1（講演時間各50分）

「医療放射線関係者への放射線防護教育の現状と課題」

大野 和子（京都医療科学大学）

11:10～12:10

第Ⅱ部 パネルディスカッション（講演時間：各25分）

テーマ：「放射線診療における放射線防護教育とは？」—その意義と必要性—

座長 菊地 透（医療放射線防護連絡協議会 総務理事）

座長講演

ICRP Publ. 113の「放射線診断およびIVRにおける放射線防護教育と訓練」紹介

1. X線・CT検査における放射線防護教育とその意義

鈴木 滋（さいたま赤十字病院）

（12:10～13:10 昼食休憩）

13:10～14:30

2. IVR手技における放射線防護教育とその意義

坂本 肇（山梨大学医学部附属病院：IVR専門技師認定機構）

3. 循環器診療における放射線防護とガイドライン

粟井 一夫（榊原記念病院）

4. 核医学診療における放射線防護教育とその意義

小泉 潔（東京医科大学八王子医療センター）

（14:30～14:45 休憩）

14:45～16:15

第Ⅲ部. 総合討論

指定発言：多田順一郎（放射線安全フォーラム）他

閉会あいさつ 菊地 透（医療放射線防護連絡協議会総務理事）

◆ 参加費：3,000円（講演要旨集代含む）

（一般市民の方は無料 但し、事前登録お願いします）

- ◆ 申込方法：FAX. またはEメールでお申し込みください。
- ◆ 申 込 先：医療放射線防護連絡協議会 事務局
〒113-8941 東京都文京区本駒込 2-28-45 日本アイソトープ協会内
Fax：03-5978-6434 TEL:03-5978-6433(月・水・金のみ)
E-mail：jarpn@chive.ocn.ne.jp